

令和元年度
(平成30年度実績)

食肉衛生検査業務概要



鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、日頃より格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

当検査所では「鹿児島市食品衛生監視指導計画」に基づき、と畜検査による食用に適さない食肉の流通防止、と畜場に対する衛生監視指導、残留有害物質のモニタリング検査や微生物汚染実態調査等を実施しております。

さて、来年に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、国際レベルの食品衛生管理体制を整備するため、昨年6月に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が公布され、と畜場を含む原則すべての食品等事業者には HACCP による衛生管理が制度化されました。当と畜場でも昨年10月に ISO22000 を取得し、HACCP に基づいた衛生管理を実施しております。当検査所といたしましては、と畜場設置者に対し、引き続き HACCP 指導チームを中心に積極的に指導・助言等を続けてまいります。

また、昨年9月には国内では26年ぶりに、岐阜県で豚コレラが発生し、野生イノシシを介し、近隣各県に感染が拡大している中、近隣諸国ではアフリカ豚コレラや口蹄疫等の海外悪性伝染病も発生しております。当検査所といたしましても、これらの感染症に対しましては、関係機関と連携を強化し、情報共有や消毒の徹底等、防疫及び衛生指導を実施し、疾病の蔓延防止に努めてまいります。

今後も、日々の検査技術の研鑽や最新の獣医学知識の習得等に努め、安心・安全な食肉を提供できるよう、より一層業務の推進に取り組んでまいります。

ここに、令和元年度食肉衛生検査業務概要（平成30年度実績）を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和元年10月

鹿児島市食肉衛生検査所長
田邊 隆

目 次

第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	所在地	2
3	組織機構	3
4	職員構成	3
5	事務分掌	3
6	検査手数料等	4
	(1) と畜検査手数料	
	(2) と畜場使用料・とさつ解体料	
7	検査所管理棟平面図	5、6
8	主要検査機器	7
9	鹿児島食肉センターの概要	8

第2章 と畜検査業務の概要

1	と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	9
	(2) 年度別と畜検査頭数の推移	9
	(3) 月別と畜検査頭数	10
	(4) 月別と畜検査頭数の推移	10
	(5) 出荷地別と畜検査頭数	11
	(6) 豚の湯剥ぎ、皮剥ぎの推移	11
2	と畜検査に基づく廃棄処分措置	
	(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数	12
	(2) 年度別全部廃棄頭数の推移	13
	(3) 牛の全部廃棄状況	14
	(4) 豚の全部廃棄状況	15
3	精密検査実施状況	
	(1) 枝肉の拭き取り検査	16
	(2) 抗菌性物質の残留検査	16
	(3) BSE(牛海綿状脳症)の検査	17
4	その他	
	衛生講習会	17

第3章 調査研究、研修等

1	調査研究部会	18
2	職員の技術研修等	18、19

第1章 検査所の概要

1. 沿革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ 変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新設
昭和 53 年 2 月	病畜棟(134 m ²)の新設、検査員事務室（64 m ² ）の増設
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 11 年 1 月	と畜場が対香港輸出豚肉取扱い施設として認定される
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 4 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱い施設として認定される と畜場が対マカオ輸出牛肉取扱い施設として認定される
平成 26 年 9 月	と畜場が対ベトナム輸出牛肉取扱い施設として認定される
平成 30 年 8 月	と畜場が対ミャンマー輸出牛肉取扱い施設として認定される
平成 30 年 10 月	と畜場が ISO22000 を取得

2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）

郵便番号 891-0144

住 所 鹿児島市下福元町7852

電 話 (099) 262-2116

F A X (099) 262-4940

アクセス方法

①電車を利用

JR鹿児島中央駅より、JR指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、JR五位野駅で下車
JR五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

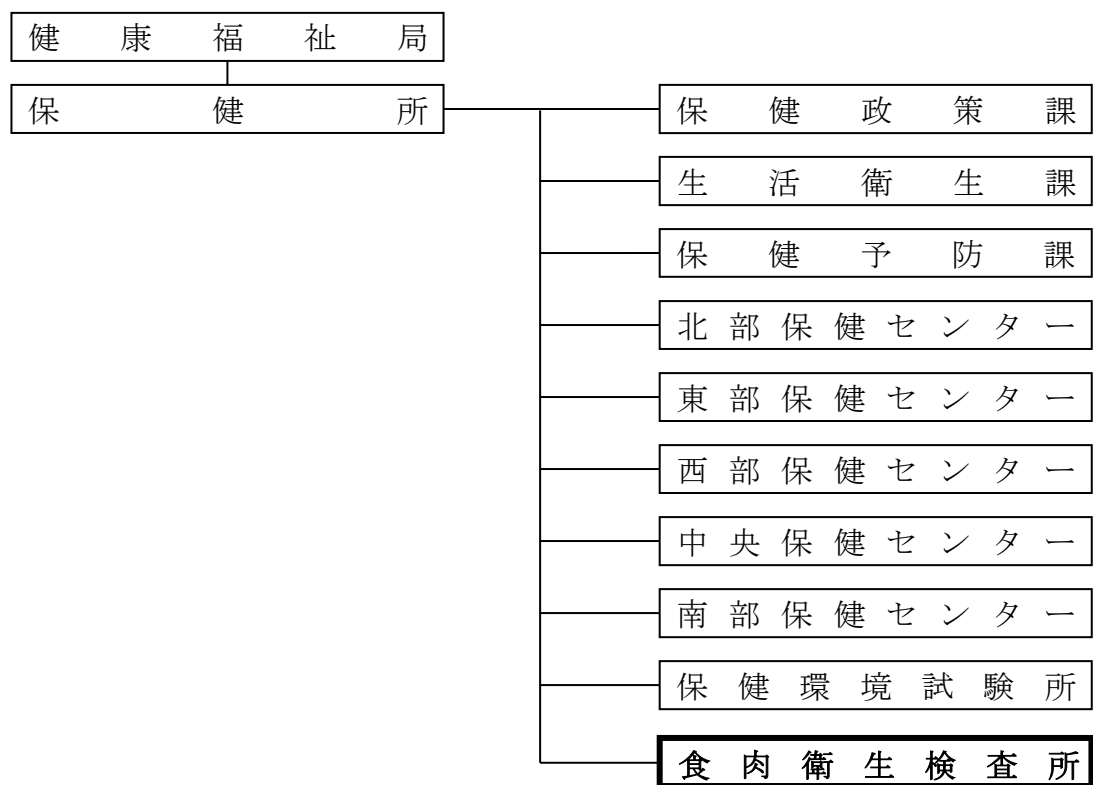
②航空を利用

鹿児島空港よりバス利用の場合

高速バス（直行便）でJR鹿児島中央駅まで約40分 その後電車を利用



3. 組織機構



4. 職員構成

1年9月1日現在

職名	所長	係長	主査	主任	獣医師	主査	臨時職員		合計
職種	獣医師					事務	補助員	事務	
人数	1名	1名	4名	5名	2名	1名	7名	1名	22名

5. 事務分掌

鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。
(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 手数料の収納に関すること。
- (4) 公印の保管に関すること。
- (5) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所生活衛生課食品衛生係が所掌し、指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に検査業務を委任している。

6. 検査手数料等

(1) と畜検査手数料

(1頭あたりの手数料)

区 分	時間内	時間外
牛・馬	760 円	1,520 円
子牛・子馬	380 円	760 円
豚	350 円	700 円
乳とく・めん羊・山羊	170 円	340 円

平成 19 年 4 月 1 日から適用

(2) と畜場使用料・とさつ解体料

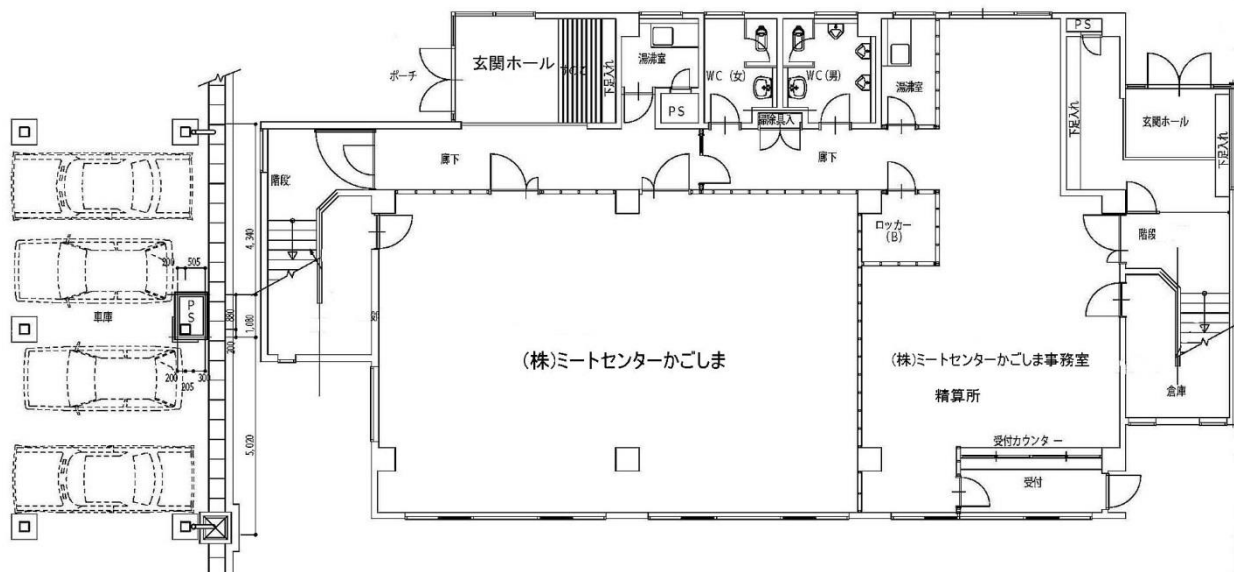
(1頭あたりの料金)

区 分		時間内	時間外		
と畜場使用料	牛・馬		2,244 円	3,366 円	
	子牛・子馬		1,122 円	1,683 円	
	豚	皮剥ぎ	1,122 円	1,683 円	
		湯剥ぎ	1,265 円		
	乳とく・めん羊・山羊		242 円	363 円	
とさつ解体料	牛・馬		5,286 円	8,597 円	
	子牛・子馬		3,258 円	6,996 円	
	豚	普通	皮剥ぎ	705 円	3,503 円
			湯剥ぎ		
		大豚	皮剥ぎ	(機 械) 1,453 円	
				(手剥ぎ) 1,879 円	4,678 円
			湯剥ぎ	1,453 円	
	乳とく・めん羊・山羊		1,602 円	5,340 円	

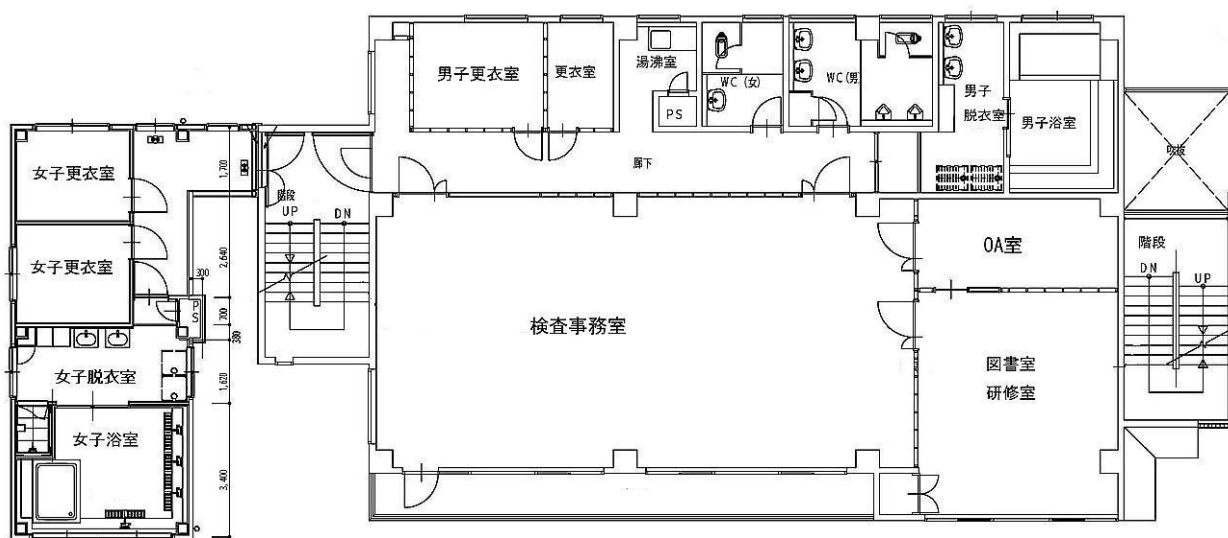
令和元年 10 月 1 日から適用

7. 検査所管理棟平面図

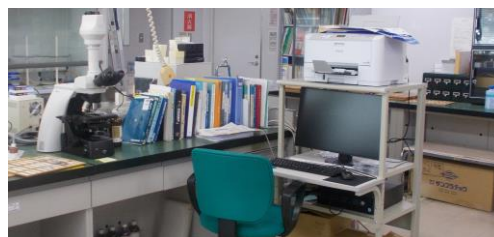
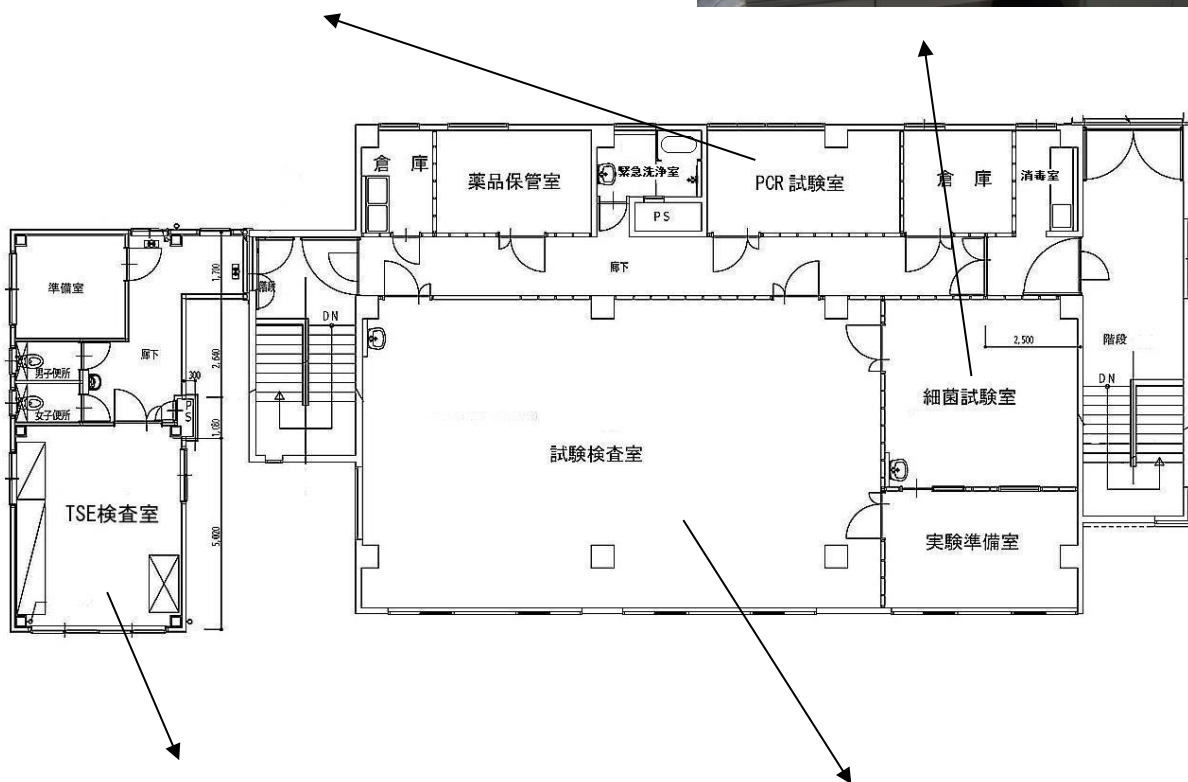
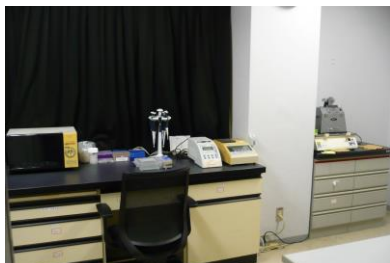
食肉衛生検査所管理棟（1階）



食肉衛生検査所管理棟（2階）



食肉衛生検査所管理棟（3階）



8. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	試験管ミキサー
	マグネットスターラー	オートクレーブ	実態顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養ジャー	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスクッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	孵卵器	万能シェーカー	低温恒温器
	湯煎器	DNA 増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	嫌気性培養装置	微量電子天秤
	ミキサー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	安全キャビネット		

理化学検査関係	超音波洗浄機	血液生化学自動分析装置	水分計
	電子分析天秤	高速液体クロマトグラフ	ロータリーエバポレーター
	pH メーター	アスピレーター	振とう器
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	ピペット洗浄器

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	滑走式マイクロトーム		

T S E 検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管ミキサー	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	保冷库		

9. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m² (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m²

(3) 延床面積 14,461.16 m²

本 館 棟 12,353.78 m²

		大動物	小動物	共 用	(m ²) 小計
とさつ解体 施 設	係留バース	1,740			7,233
	係留施設	369	958		
	と室・解体室	323	926		
	内臓処理室	144	264		
	休憩室・工作室・廊下等	2,509			
冷蔵室		205	257		462
部分肉処理加工施設		929	1,985	824	3,738
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
計		1,670	4,690	5,993	12,353

管 理 棟 967.60 m²

病 畜 棟 262.50 m²

廃棄物処理棟 420.00 m²

受 水 槽 棟 75.56 m²

汚 水 処 理 棟 381.72 m²

(4) 処理能力

	大 動 物	小 動 物
けい留所収容	57 頭	1,000 頭
とさつ・解体	80 頭/日	1,300 頭/日
懸肉・予冷		1,300 頭/日
冷却・冷蔵	200 頭	1,900 頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45 頭/日	400 頭/日

第2章 と畜検査業務の概要

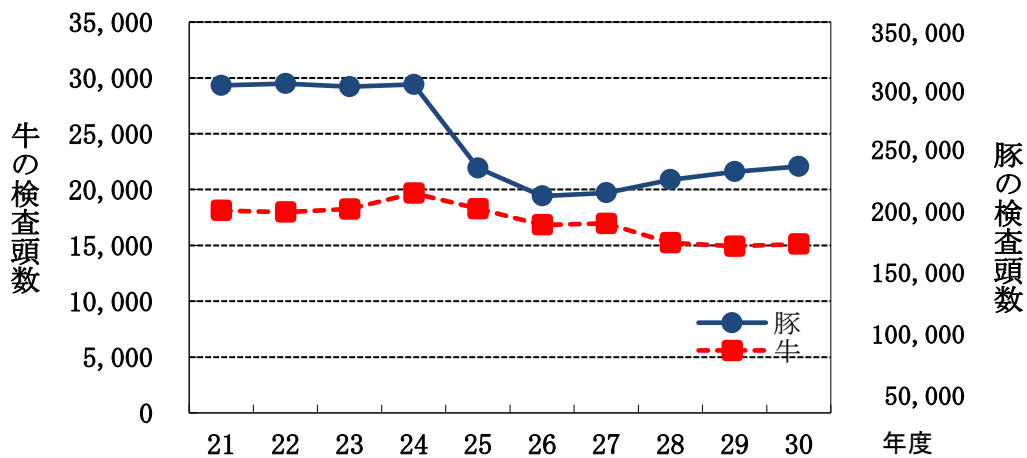
1. と畜検査頭数

(1) 年度別と畜検査頭数

	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
21年度	17,993	100	39	2	12	1	293,171	26	311,344
22年度	17,780	135	63	2	5	0	294,839	32	312,856
23年度	18,126	112	17	5	3	0	292,039	26	310,328
24年度	19,543	105	20	3	2	0	294,017	32	313,722
25年度	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503
26年度	16,719	101	14	3	0	0	194,150	21	211,008
27年度	16,846	109	12	2	0	0	196,935	35	213,939
28年度	15,131	102	3	0	0	0	208,772	28	224,036
29年度	14,840	85	10	1	0	0	215,869	28	230,833
30年度	15,015	91	6	0	0	0	220,662	23	235,797
	15,106		6		0		220,685		
	15,112				0				

注) 子牛は生後1年未満の牛をいう。

(2) 年度別と畜検査頭数の推移

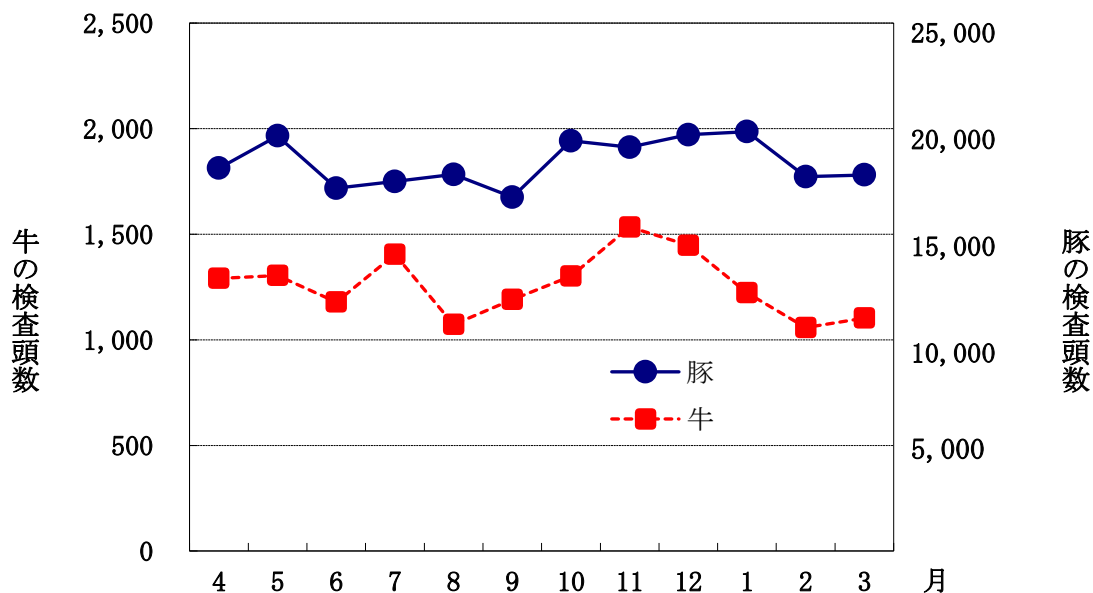


注) 25年度は大手出荷者の撤退により減となった。

(3) 月別と畜検査頭数

	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4月	1,281	10	0	0	18,120	3	19,414
5月	1,293	10	2	0	19,656	1	20,962
6月	1,173	6	0	0	17,176	0	18,355
7月	1,395	10	0	0	17,491	3	18,899
8月	1,067	6	0	0	17,830	3	18,906
9月	1,178	11	2	0	16,756	1	17,948
10月	1,291	11	0	0	19,419	4	20,725
11月	1,527	7	0	0	19,119	2	20,655
12月	1,440	8	0	0	19,710	1	21,159
1月	1,216	6	1	0	19,853	3	21,079
2月	1,057	1	0	0	17,725	1	18,784
3月	1,097	5	1	0	17,807	1	18,911
合計	15,015	91	6	0	220,662	23	235,797

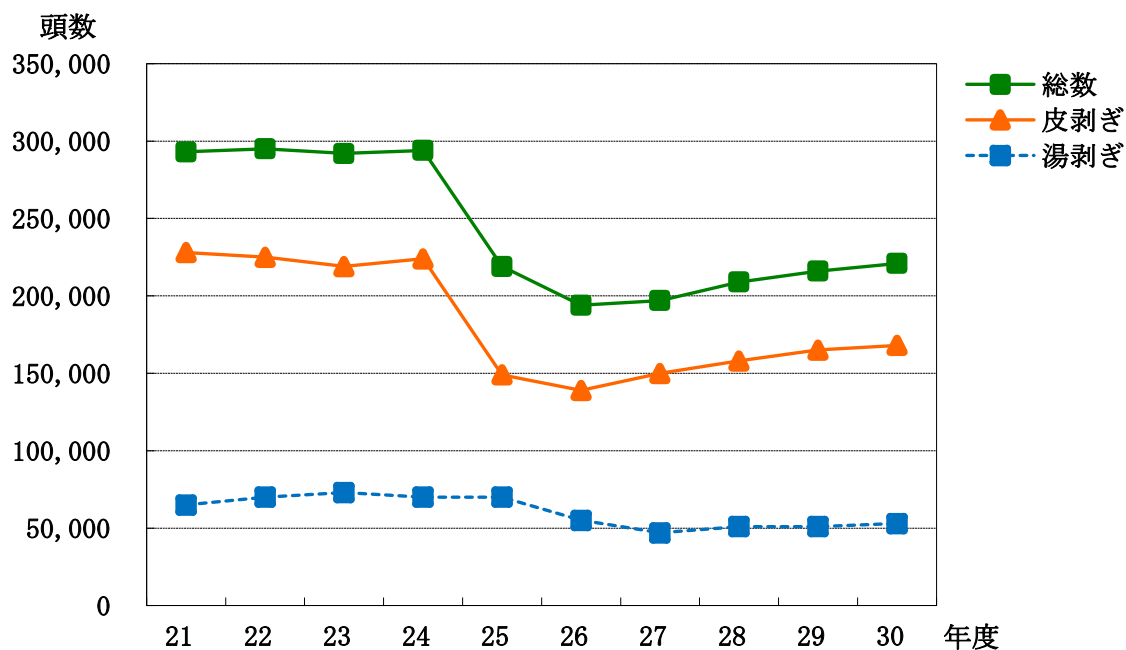
(4) 月別と畜検査頭数の推移



(5) 出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	雄						
鹿児島地区	376	15	0	4	0	395	2.6	625	0.3
指宿地区	1,190	2	223	490	0	1,905	12.6	8,281	3.8
川辺地区	1,672	66	3	193	0	1,934	12.8	67,891	30.8
日置地区	638	23	1	1	1	664	4.4	0	0.0
薩摩地区	672	139	3	323	1	1,138	7.5	21,163	9.6
出水地区	856	9	0	0	0	865	5.7	7,314	3.3
伊佐地区	468	83	1	310	0	862	5.7	13,431	6.1
始良地区	591	153	0	45	1	790	5.2	5,763	2.6
曾於地区	452	45	0	1	0	498	3.3	34,252	15.5
肝属地区	2,492	120	0	9	0	2,621	17.3	36,946	16.7
熊毛地区	61	0	0	0	0	61	0.4	242	0.1
大島地区	43	0	0	1	0	44	0.3	457	0.2
宮崎県	1,503	822	51	1	0	2,377	15.7	18,664	8.4
熊本県	119	209	5	84	1	418	2.8	5,642	2.6
その他	384	130	0	24	2	540	3.6	14	0.01
計	11,517	1,816	287	1,486	6	15,112	100	220,685	100

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎ頭数の推移 (豚)



2. と畜検査結果に基づく措置

(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数

種別	と畜場内とさつ頭数	処分内容	処分実頭数		疾病別頭数																		計				
					細菌病							ウイルス	寄生虫病			その他の疾病											
					炭疽	豚丹毒	サルモネラ病	結核	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚コレラ	その他	ジストマ	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍		中毒諸症	炎症又は炎症産物汚染物	変性又は萎縮	その他
牛	15,106	禁止																									
		全部廃棄	114	0.8								56				10	11	12	7	7	8			3		114	
		一部廃棄	13,169	87.2										67							4		12,406	3,154	1,742	17,373	
子牛	6	禁止																									
		全部廃棄	1	16.7														1									1
		一部廃棄	5	83.3																			5		1	6	
豚	220,685	禁止																									
		全部廃棄	971	0.4		41	66									400	306	28	22	72	16			20		971	
		一部廃棄	155,006	70.2																22			150,396	3,700	10,915	165,033	
合計	235,797		169,266			41	66					56		67	0	410	317	41	29	79	50		162,807	6,877	12,658	183,498	

(2) 年度別全部廃棄頭数の推移

牛

年度 疾病	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
膿毒症	3	7	8	5	7	4	9	10
敗血症	7	10	15	11	8	10	3	11
尿毒症	17	8	3	2	2	9	6	13
高度の黄疸	8	4	6	4	4		4	7
高度の水腫	21	26	11	20	11	12	8	7
腫瘍	9	13	15	3		1	5	8
変性又は萎縮				1	2		1	3
牛白血病	31	41	50	27	28	17	33	56
その他							1	
計	96	109	108	73	62	53	70	115

注) H23年度より「腫瘍」のうち牛白血病と診断したものは「牛白血病」に分類

豚

年度 疾病	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
膿毒症	224	261	196	191	231	283	361	400
敗血症	80	167	87	96	75	80	151	306
尿毒症	17	20	11	6	11	8	11	28
豚丹毒	78	80	131	30	38	31	26	41
高度の黄疸	4	5	2	6	5	6	5	22
高度の水腫	200	256	104	98	32	52	63	72
腫瘍	21	24	8	3	4	6	11	16
炎症又は炎症 産物								
変性又は萎縮	56	34	24	23	21	30	19	20
サルモネラ症							18	66
その他								
計	680	847	563	453	417	496	665	971

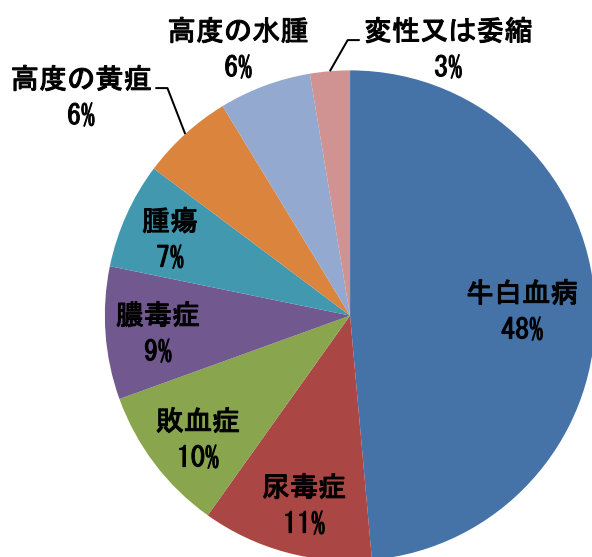
(3) 牛の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	牛									
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	その他	変性又は萎縮	牛白血病	合計
4月			3	1		1			5	10
5月		3	3						6	12
6月	2	1	1		2			1	5	12
7月		2	1						7	10
8月	1		1		1	1			4	8
9月	2	2		2	1	1			5	13
10月	1		1	3	2	1		1	6	15
11月	2		1						4	7
12月	1	2		1	1				3	8
1月			1			1		1	4	7
2月		1	1			1			5	8
3月	1					2			2	5
合計	10	11	13	7	7	8	0	3	56	115

(子牛含む)

全部廃棄の疾病別割合

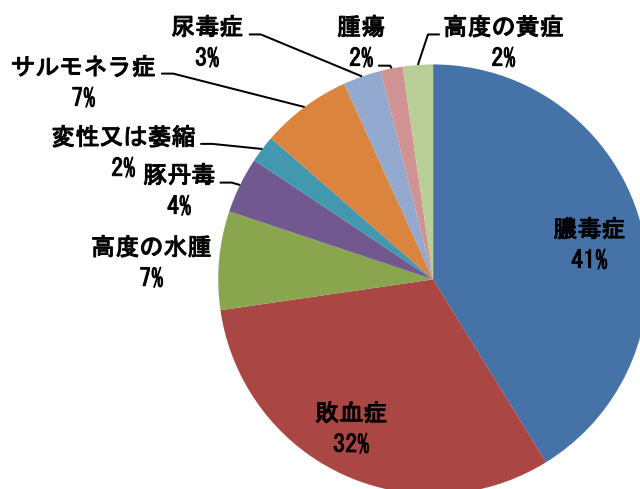


(4) 豚の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	豚											
	豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	産物による汚染 炎症または炎症	変性又は萎縮	サルモネラ症	その他	合計
4月	2	29	24	1	2	9	1					68
5月	4	28	25	2	1	6			4	6		76
6月	10	24	16	2	2	6	1		1	3		65
7月	3	29	14		1	2	5		3	31		88
8月	4	47	21		5	7	1			17		102
9月	5	34	24	2	1	4			1	2		73
10月	3	39	20		4	1	2		4			73
11月	4	48	24	2	4	9			2			93
12月		47	38	8	1	4	1		2	1		102
1月	5	24	37	4		5	1		1			77
2月	1	26	39	4	1	8				5		84
3月		25	24	3		11	4		2	1		70
合計	41	400	306	28	22	72	16		20	66		971

全部廃棄の疾病別割合



3. 精密検査実施状況

(1) 枝肉の拭き取り検査

(検体数)

項目 種別	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌
牛	95	95	55	55	55
豚	95	95		55	55
計	190	190	55	110	110

(2) 抗菌性物質の残留検査

① 抗菌性物質の残留疑いの検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	計
検査頭数		251	5	371	627
検査結果 (陽性)	頭数	0	0	6	6
	枝肉	0	0	2	2
	肝臓	0	0	2	2
	腎臓	0	0	6	6
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	0	0	2	2

② 疾病疑いによる保留での検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	計
検査頭数		161	1	1,422	1,584
検査結果 (陽性)	頭数	0	0	7	7
	枝肉	0	0	4	4
	肝臓	0	0	2	2
	腎臓	0	0	7	7
処分状況 (検査結果が 陽性の症例 について)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病名で 全部廃棄	0	0	4	4
備考	自主廃棄	0	0	0	0

③ モニタリング検査結果 (厚生労働省通知に基づく検査)

食品	検査検体数	検査項目数※	検査結果
牛の筋肉	10	11	検出せず
牛の腎臓	10	4	
豚の筋肉	20	11	
豚の腎臓	20	4	

※抗生物質簡易検査4系統 (テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系)

※合成抗菌剤一斉分析7薬剤 (スルファメゾロン、スルファモキシム、スルファジメキシム、チアンフェニコール、オルメトロピム、トリメトロピム、ピリメタミン)

(3) BSE（牛海綿状脳症）の検査

(検体数)

	牛 (子牛を含む)	BSE検査頭数	BSE検査対象
26年度	16,837	4,224	48か月齢を超える牛
27年度	16,969	4,000	48か月齢を超える牛
28年度	15,236	3,171	48か月齢を超える牛
29年度	14,936	-	24か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
30年度	15,112	3	24か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※

※29年4月から健康牛については廃止。24か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛について、と畜検査員が必要と判断する場合につき実施する。

4. その他

衛生講習会

食肉センター従事者および市民を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期・回数
HACCPについて	食肉センター 従事者	45名	H30年11月(1回)
H30年度枝肉拭取り検査結果について			H31年2月(1回)
安心して食べられる食肉をめざして	市民	17名	H30年10月(1回)

第3章 調査研究、研修等

1. 調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて調査・研究・情報交換等を行った。

年 月	テーマ	場 所
H30年5、11月 H31年2月	<微生物部会> ・豚丹毒の検査方法に関する検討	第1回
	<病理部会> ・豚の敗血症（心内膜炎型）における主要臓器の病理組織学的検討	鹿児島県末吉食肉衛生検査所 第2回
	<理化学部会> ・畜産領域で使用されている抗菌性物質等の感受性培地における阻止円形成パターンの検討	鹿児島県獣医師会館 第3回 鹿児島県獣医師会館

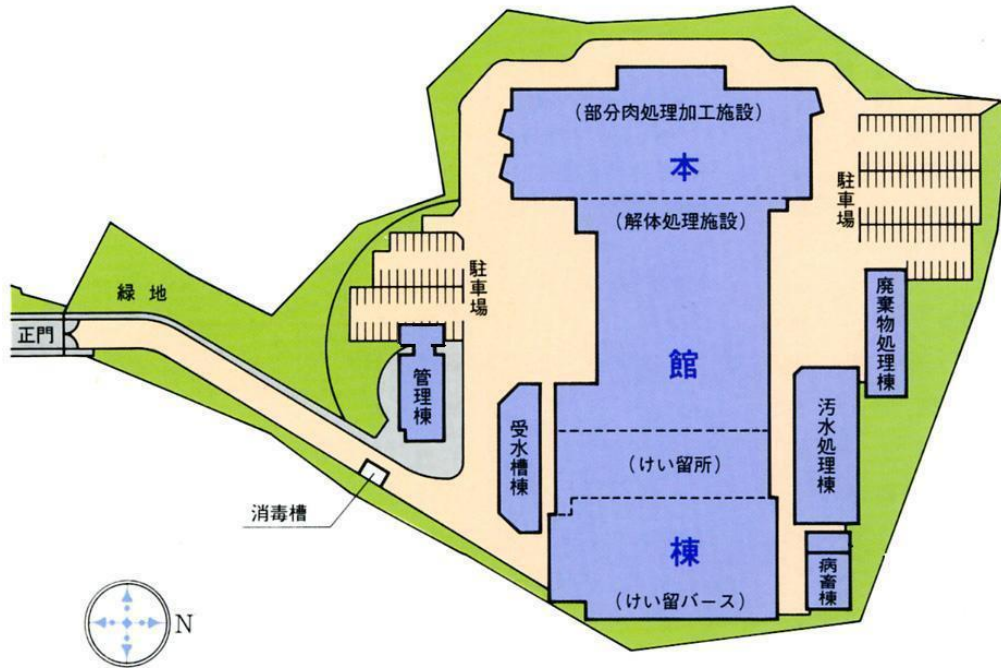
2. 職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、研修会および学会等へ参加した。

年 月	業務研修の内容	場 所
H30年6～7月	国立保健医療科学院研修食肉衛生検査研修	埼玉県和光市
H30年7月	鹿児島県獣医公衆衛生技術研修会	鹿児島市
H30年10月	九州地区食肉衛生検査所所長会・研究部会・研修会	佐賀市
H30年10月	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会・研修会	栃木県宇都宮市

H30年11月	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会・研修会	横浜市
H30年11月	全国食肉衛生検査所協議会病理部会総会・研修会	神奈川県相模原市
H30年11月	HPLC スクール	横浜市
H30年11月	鹿児島県新規採用と畜・食鳥検査員技術研修会	鹿児島県曾於市
H31年1月	厚生労働省食肉衛生及び食鳥肉衛生技術研修会	東京都
H31年1月	HPLC 入門講習会	京都市
H31年1月	HACCP 導入における指導・検証の平準化研修会	佐賀市
H31年2月	日本獣医師会獣医学術学会年次大会	横浜市

施設配置図



令和元年度 業務概要

令和元年10月 発行

鹿児島市食肉衛生検査所

〒891-0144

鹿児島市下福元町7852

TEL 099(262)2116

FAX 099(262)4940

数